難波宮跡北西部の調査

大阪府警察本部棟新築工事に伴う
難波宮跡発掘調査現地説明会資料２

2004年２月21日
（財）大阪府文化財センター

調査の経過

今回の調査は、大阪府警察本部棟の新築２期工事に伴うものです。今回の調査では、豊臣期の大坂城に関わる大規模な堀を検出し、大坂冬の陣前後の緊迫した状況を具体的に垣間見ることができました。その後、調査地北東部で古代の谷を検出し、ここから20点を超える絵馬や祭祀に関わる遺物が出土しました。これらは難波宮との関係において重要な調査成果であり、再び一般公開を行うことにしました。

ふたつの難波宮跡

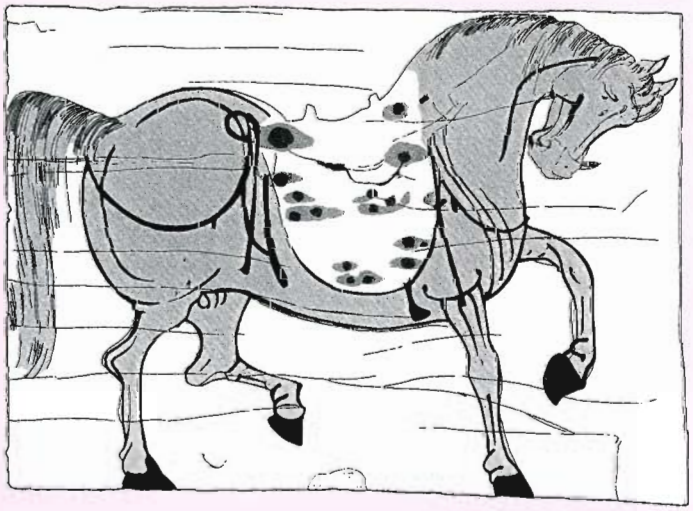
今回の調査地の南東には難波宮跡が史跡公園として整備されています。この難波宮跡はこれまでの発掘調査で大きく２時期に分かれることが明らかとなっています。そのうち前期難波宮と仮称される古い段階のものは、『日本書紀』に記された孝徳天皇の難波長柄豊碕宮にあたると考えられています。また、瓦を伴う後期難波宮跡については神亀３(726)年に造営が開始される聖武天皇の宮と考えられています。

出土した遺物

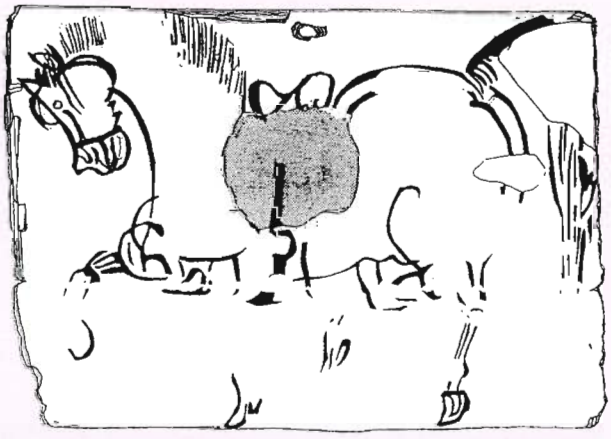
今回の調査で検出した谷は古代にさかのぼるものであり、下層を中心に多くの遺物が出土しています。その中でも３層とした粘土層からは絵馬や斎串のほか、人形や琴柱などの祭祀関連遺物が出土しています。３層の出土遺物は大半が７世紀のものですが、わずかではありますが重圏文軒丸瓦や奈良時代の土器片が出土しています。絵馬は現在までに26点の出土を確認しており、一遺跡での出土数としては群を抜いています。出土した絵馬は幅24cm前後のものが大半を占めていますが、小振りのものも出土しています。描かれた絵馬の多くは鞍や障泥、鐙などを表現した飾り馬が多く、半数以上が右向きです。多くの馬は墨で描かれた輪郭や鞍、障泥などが残るのみですが、一部では赤色顔料が残っています。

これらの絵馬は他の祭祀関連遺物などとともに難波宮に関連する国家的祭祀に関わるものである可能性が高いものと考えられます。

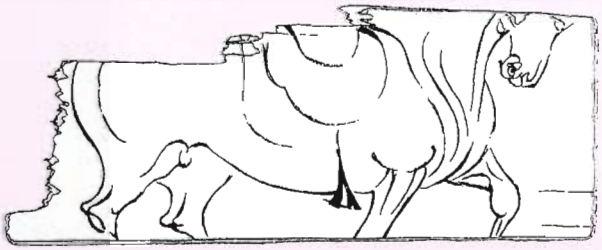
このほか、今回の調査では４層とした砂層から７世紀後半以前の土器とともに、漆が付着した土器片が1200点以上出土しています。前期難波宮の段階に当地へ各地から多量の漆が運ばれてきていたこと示しており、すでに今回の調査地の南側で検出されている大蔵と考えられる内裏西方倉庫群との関連においてもきわめて重要な位置を占めるものといえます。



1



2



3

4

1．平城京跡　（奈良県奈良市）
2．十里町遺跡（滋賀県長浜市）
3．加美遺跡　（大阪府大阪市）
4．加美遺跡　（大阪府大阪市）

▲　古代絵馬の類例（1：3）

古代の谷

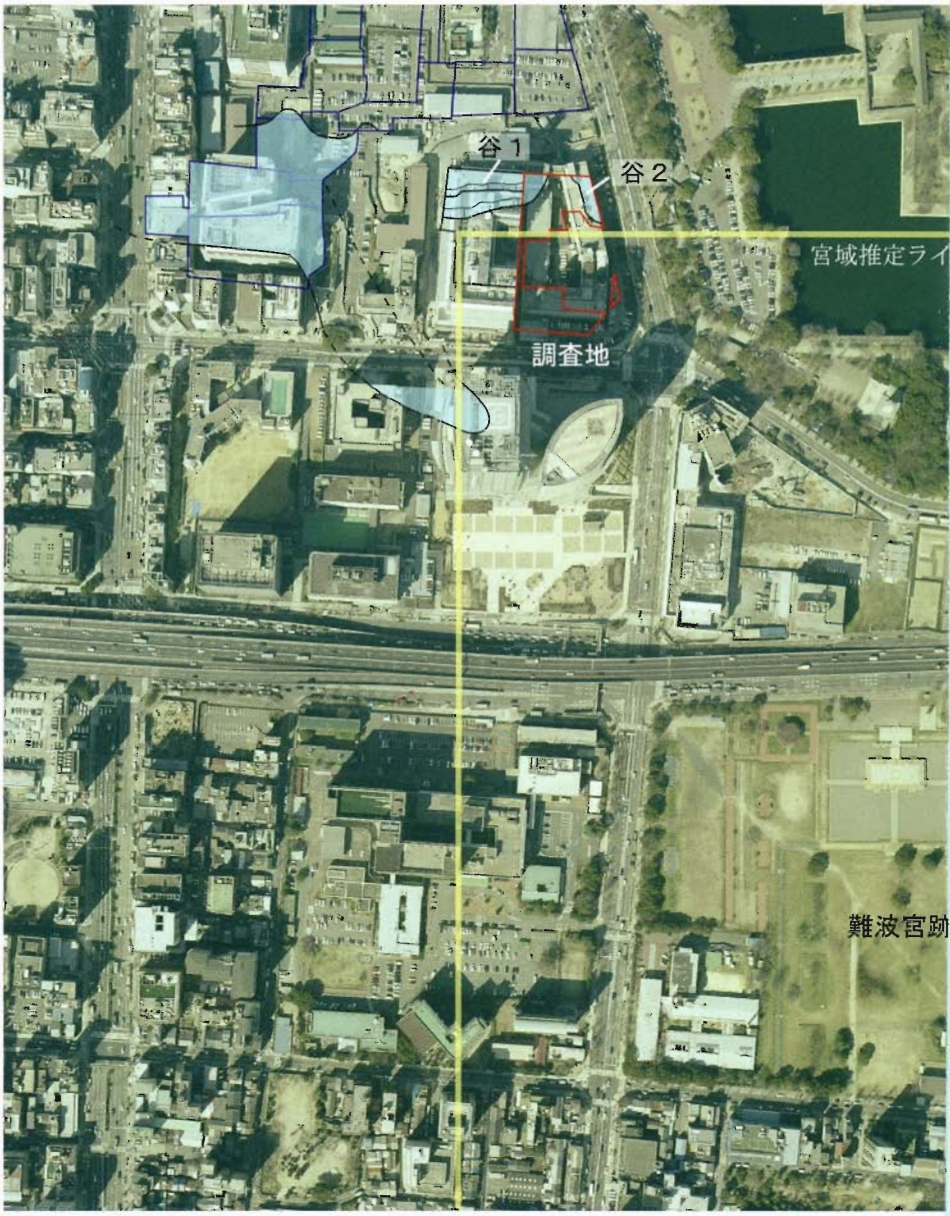
今回の調査では調査地北西部と北東部で古代の谷を検出しました。北西部の谷は2000年の調査で検出した東西方向の谷（谷１）につながるものです。この谷からは西暦648年にあたる「戊申年」と書かれた木簡が出土しています。今回の調査ではこの谷１の続きの調査に期待がかかりましたが、豊臣期の大坂城の堀によって削られていたこともあり、部分的にしか残っていませんでした。しかし、調査地北東部では南東から北西に向かってのびる谷を新たに検出しました（谷２）。この谷は全体的に調査したのみですが、調査地東端では花崗岩ます。また、谷の南側では３個の柱穴が東西に並は直径約30cmの柱が残り、西側の柱は立ったままの柱列は塀である可能性も高く、前期難波宮跡のています。詳細な検討はこれからですが、今回のおける土地利用の様相を考える上できわめて重要

▲　西側で検出した古代の谷１
（西から：2000年調査）

▲　谷１から出土した主要な木簡
（2000年調査）

▲　谷１から出土した絵馬（2000年調査）

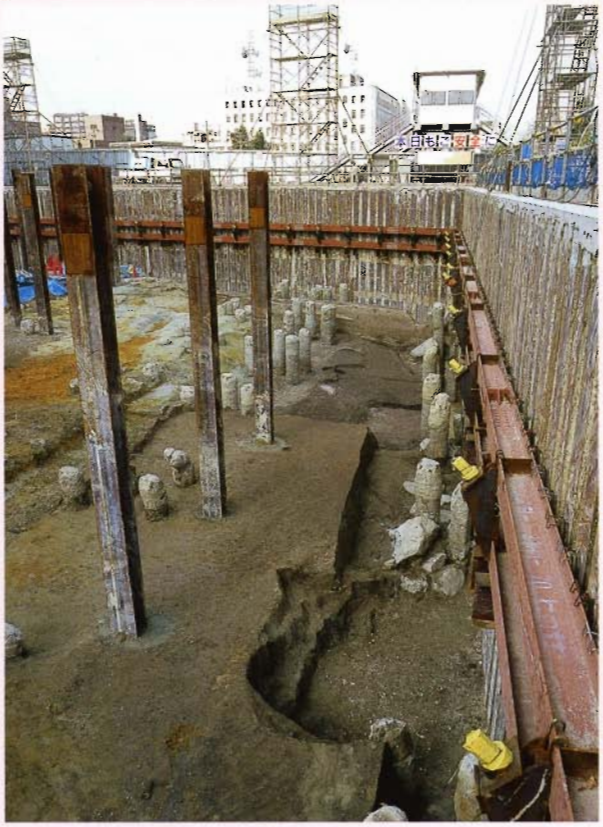
▲　谷１出土の祭祀関連遺物（2000年調査）



▲　谷２から出土した木簡

からすると西側の肩部を部分の集積を検出するなどしていんで検出されました。２個にの状態を留めていました。こ宮域の推定北端とほぼ一致し調査成果は難波宮跡北西部にな意味をもつものといえます。

▲　難波宮跡と古代の谷



▲　今回の調査で見つかった谷２（南から）

▲　谷２の堆積状況（東から）

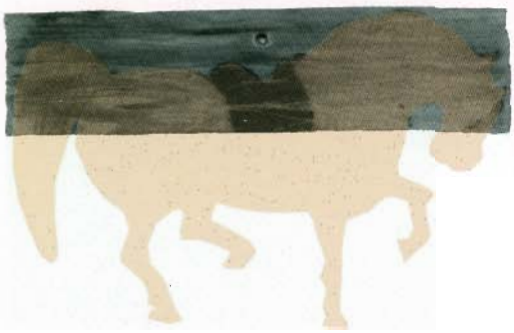
▲　木製品出土状況（西から）

▲　絵馬出土状況（東から）

▲　漆を運んだ容器

▲　谷２出土の祭祀関連遺物

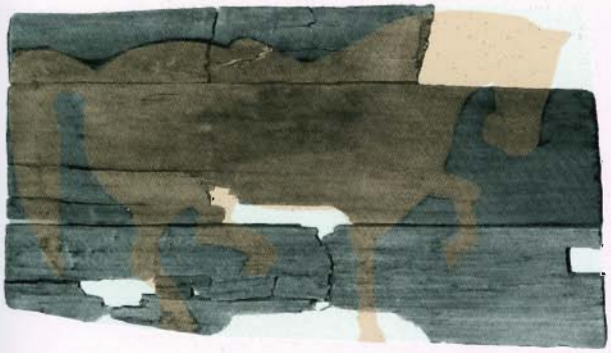
▲　谷２から出土した主要な絵馬



1．右向きの飾り馬。上部に穴がある。
(20.0×4.8×0.4)

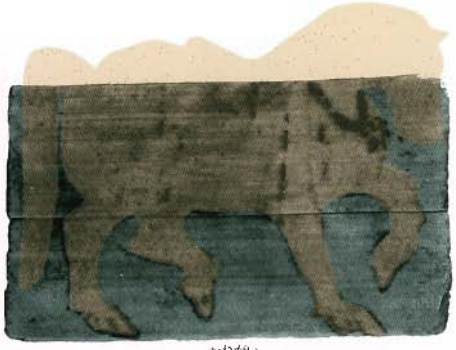
2．右向きの飾り馬。口の周りに赤色顔料が残る。
(20.2×5.3×0.4)

3．右向きの飾り馬。黒く塗られた鞍(くら)が明瞭。
(22.5×8.9×0.4)

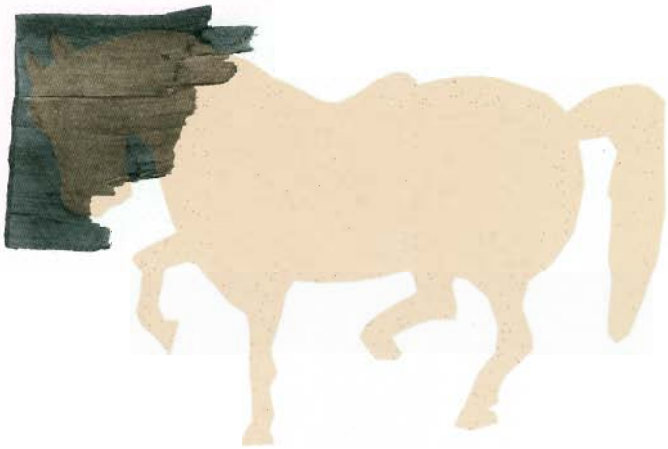


4．右向きの飾り馬。馬の絵は全体に不明瞭。
(23.9×13.3×0.4)

5．右向きの馬。顔料が残り、赤馬を描いたもの。
(23.5×6.4×0.5)



6．右向きの飾り馬。胸繋(むねがい)などが描かれている。
(18.6×10.0×0.5)



7．左向きの馬。顔の部分しか残らないが大型の絵馬。
(9.2×9.2×0.4)

8．左向きの馬。脚部のみが残る。７や９とほぼ同大。
(20.0×8.2×0.5)

9．左向きの飾り馬。鞍(くら)のほか、鐙(あぶみ)なども描かれる。筋肉の描写などが平城京跡および加美遺跡の事例に似る。
(25.2×11.3×0.5)

▲　出土した主要な絵馬（1：3）

いずれも赤外線スキャナで取り込んだものを画像処理。法量は（横×縦×厚さ）で明朝体による表記は残存長で単位はcm。

難波宮関連年表

六四五（大化元）年
六月　乙巳の変（大化改新）、軽皇子即位。孝徳天皇となる。
一二月　難波長柄豊碕に都を遷す。

六四七（大化三）年
小郡を壊して宮を造営。孝徳天皇、小郡宮において礼法を定める。

六四八（大化四）年
正月　天皇、難波碕宮に行幸。

六四九（大化五）年
三月　左大臣阿倍内麻呂薨ず。
天皇、朱雀門に行幸し、ひどく悲しみ大声で泣く。

六五〇（白雉元）年
将作大匠荒田井直比羅夫を遣って宮の境界標を立てた。この頃、難波長柄豊碕宮の造営開始か。

六五一（白雉二）年
天皇、大郡から新しい宮に遷居、難波長柄豊碕宮と号した。

六五二（白雉三）年
正月　孝徳天皇、大郡宮に行幸。
九月　難波長柄豊碕宮完成。

六五四（白雉五）年
一〇月　孝徳天皇、正殿で崩ず。殯宮を南庭に建てる。

六六〇（斉明六）年
斉明天皇、百済に救援軍を発せんために難波宮に行幸。

六七二（天武元）年
壬申の乱。天武方の将軍大伴連吹負、難波小郡で西国国司を掌握。

六七九（天武八）年
難波に羅城を築く。

六八三（天武一二）年
一二月　複都制の詔。難波を複都とする。

六八六（朱鳥元）年
一月　難波大蔵省から失火、宮室全焼。

六九二（持統六）年
親王以下すべての有位官人に難波大蔵の鍬を賜う。

上段：難波宮跡と調査地（南東から）　下段：調査地遠景（西から）

七二六（神亀三）年
一〇月　藤原朝臣宇合を以て、知造難波宮事とし、後期難波宮の造営開始。
七三二（天平四）年
藤原宇合以下、仕丁に至るまで、物を賜る。この頃、難波宮造営工事一段落か。
七三四（天平六）年
有位の官人に位階に応じた宅地を難波京に班給する。
七四四（天平一六）年
難波宮を皇都と定む。
七五六（天平勝宝八）年
孝謙天皇、難波宮の東南新宮に御す。
七八七（延暦六）年
長岡京遷都。この頃、難波宮廃止か。

難波宮跡・大阪城周辺航空写真（平成11年10月撮影）

難波宮跡北西部の調査
大阪府警察本部棟新築工事に伴う難波宮跡発掘調査現地説明会資料２
発　行/(財)大阪府文化財センター
〒590-0105　大阪府堺市竹城台３丁21番４号
℡072-299-8791
印　刷/(株)中島弘文堂印刷所
2004年２月21日

表紙題字：白橋鐘道氏揮毫